

# 令和3年度 志木教会附属泉幼稚園 自己評価結果公表シート

2022年6月30日

## 1. 本園の教育目標

キリスト教保育を実践する幼稚園として以下の基本的な教育目標を掲げる。

- 1) イエス様と共に生活する子どもになれるように導く。
- 2) 思いやり、感謝、あたたかい心を育て、心の動きを大切にする。
- 3) 一人一人の長所を認め、受けいれられているという安定感を持てるように接する。
- 4) 楽しい遊びを通して、自分で考え、判断し、行動できるように導く。

## 2. 令和3年度、重点的に取り組む目標・計画

園の教育理念・教育方針の下、その教育目標に従いつつ、個々の園児に寄り添いその成長に仕える。

- 1) キリスト教保育の理念や目標を、個々の園児の成長目標に沿って当てはめ、適切な声かけをしていくようにする。また保護者とのコミュニケーションを大切に家庭と連携し、それぞれの成長を促す取り組みをする。
- 2) 研修に励み、満3歳児（すみれ組）や特別支援児保育への適切な対応を学ぶことで、園全体としての保育の質が維持、向上されていくことに励む。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	取り組み状況
1) 教育目標設定、具体的手段の検証、評価と発展	A	満3才児から卒業に至るまでの各学年や時期に沿った教育目標を期案等でさらに明確にしている。各園児の発達の様子や日常の課題を保育者間で情報交換しつつ把握し、各自の教育課題に適宜対応できるように努める。
2) コロナ禍における適切な保育活動を探り求め、実践する。	A	With コロナの時代にあって、様々な知見を参考にして何が可能かを話し合い適切に判断し合っている。感染予防を徹底しつつ、子ども達の成長に欠かせないコロナ前で行われていた教育活動の再開の可能性を探る。
3) 園内研修と園外研修の積極的な取り組み	B	日々の忙しさの中に、自己研鑽の時間を取ることができない状況があるが、積極的に研修の機会を得られるようにする。療育機関の方に来ていただいていたカンファレンス等、出来る範囲で行った。
4) 満3才児（すみれ組）の保育のあり方を探る	A	どの時期に満3才児が何人入園してくるかは、年度によって異なる。今後、3歳児、満3歳児のそれぞれの、より良い成長のための道を探る。
5) 防災・防犯・無事故のための危機管理をすすめる。	B	園児との避難訓練や、災害時等の保護者への引き渡し訓練、教師の さすまた等を用いた不審者に対する訓練や対応、遊具の点検、学校安全のマニュアルを再検討等しつつ、保育者間の連携を深める。
6) 特別支援児保育	A	各特別支援児の課題や成長の度合いを適宜全保育者間で共有し、適切な教育的営みができるようにする。志木市発達支援センター（すきっぷ）等の支援を積極的に受ける。

7) 歌うことを喜び、人前で自信をもって歌う	B	人前で歌う機会を増やすことを通して、自信をもって歌えるようになり、歌うことを喜び楽しむことができるようにしていく。
8) 保護者と連携して食育を充実させる	B	様々な機会を通して食育の大切さを発信し、各園児の偏食傾向を是正できるように取り組む。皆で食べる楽しさ、自分で調理する喜び等、実体験を大切にする。

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

期案等を定期的に全保育者で確認修正し、3年間の保育を通した教育目標をいつも覚えつつ、日々の保育にあたることができた。コロナ感染予防に対する対応も、その都度適切にでき、ほぼ通常の行事を取り入れることができた。個々の園児のユニークな成長のために、園全体としてさらにより良き保育を目指して、保護者と保育者間や全教職員間のコミュニケーションを活発にして励みたい。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的取り組み方法
1) コドモンの導入による園関係者間のコミュニケーションの向上	満3才児から卒業に至るまでの各学年や時期に沿った教育目標を期案等でさらに明確にし、各園児の発達の様子を教師間で情報交換しつつ、各自の教育課題に適宜対応できるように努める。
2) コロナ禍における適切な保育活動を探り求め、実践する。	今後も With コロナ期間が継続することを見据え、感染予防に関わる適切な判断をしつつ、子ども達に大切な保育活動の充実を探り実践する。
3) 園内研修と園外研修の積極的な取り組み	長期休業中だけでなく、学期中も園外研修ができるような保育体制を整えつつ、積極的に研修を受ける。
4) 満3才児(すみれ組)の保育のあり方を探る	ここ数年満3歳児入園の数が増えている。満3歳児の発達に見合った活動を計画し実行する。
5) 防災・防犯・無事故のための危機管理をすすめる。	園児との避難訓練や、災害時等の保護者への引き渡し訓練、教師のさすまた等を用いた不審者に対する訓練や対応、遊具の点検、学校安全のマニュアルを再検討等しつつ、保育者間の連携を深める。預かり保育(おるすばん保育)の時間帯における訓練もすすめる。
6) 預かり保育のあり方を再検討する。	預かり保育(おるすばん保育)を利用する保護者が増加している。標準時間保育でなされている教育を、預かり保育でも継続すること、異年齢同時保育の課題を確認し対策を練る。
7) 歌うことを喜び、人前で自信をもって歌う	人前で歌う機会を増やすことを通して、自信をもって歌えるようになり、歌うことを喜び楽しむことができるようにしていく。
8) 保護者と連携して食育を充実させる	様々な機会を通して食育の大切さを発信し、各園児の偏食傾向を是正できるように取り組む。